

社会福祉法人 日本点字図書館

感謝録

平成27年6月

本間一夫
生誕百年
100th ANNIVERSARY

点字から感動が生まれ、
感動はやがて私の思想になった。



数多くのご支援に感謝いたします。

今年は創立者本間一夫の生誕百年の年です。

感謝のことば

社会福祉法人 日本点字図書館

理事長 田中 徹二



皆様より頂戴いたしました多種多様なご援助にお礼を申し上げますとともに、それらを記録しました『感謝録』をお送り申し上げます。

ご覧になるとおわかりのように、昨年度も順調に事業を進めることができました。また、高額のご寄付をいただきましたので、基金を積み上げることもできました。企業をはじめ、助成団体や個人の皆様のお陰と深く感謝申し上げます。

平成27年は、日本点字図書館の創立75周年とともに、創立者本間一夫の生誕百年にあたる記念の年です。本間の業績を創立時から改めて検証するとともに、記念出版や講演会等を通して、本間の偉業や、私たちの活動を、できるだけ多くの皆様に知っていただけるように努めてまいります。視覚障害者の読書に、当館がいかに大きな貢献をしているかを、一人でも多くの皆様に理解していただきたいからです。

また、11月10日は75周年になる創立記念日です。この長い歴史の中で、私自身はその3分の1の運営を担ってきたこととなります。この間は、ちょうどコンピュータが私たちの生活に入り込んできた時代で、日進月歩のデジタルの世界に翻弄されてきた感があります。しかし、そのお陰で、視覚障害者の読書や情報入手は格段に進歩しました。今では、インターネット上の電子図書館「サピエ」において、多くの週刊誌、月刊誌などを発売からあまり待たずに読めるようになっていました。ただ、こうした情報に素早くアクセスできるのは、コンピュータの操作を得意とする方に限られます。当館の利用者に限れば、3分の2の方々は、これまでと同じように郵便局を通して、点字図書やCD図書を借りていらっしゃいます。今後も、デジタル化への対応と共に、ふれあいのあるサービスが必要だと考えています。

私たちは、今後も80周年、100周年と事業を続けていかなければなりません。厚生労働省の委託費が減額されつつある中、皆様のさらなるご支援をお願いする次第です。どうぞよろしく願いいたします。

平成 26 年度の事業のあらまし



館 長 杉山 雅章

皆様のご支援をいただき取り組みました平成 26 年度の主な事業についてご報告いたします。

まず、一昨年度行った点字図書の利用に関する調査報告書が昨年 11 月に完成しました。多くの方にご覧いただけるように当館ホームページに掲載すると共に、館内ではその結果を利用サービスに反映したり、蔵書を選ぶ際の優先順位に反映したりするなど、点字の利用拡大、普及につながるよう努めました。

次に、文部科学省からの委託事業として、マルチメディアデジターを障害児の通う学校に普及させるために、教材の製作ソフトを Web アプリケーション化する開発事業に取り組みました。2 年計画の初年度は、教員のニーズ調査と一部機能のソフト開発を行いました。

日本点字図書館への支援の輪を広げるために、広報を積極的に展開しました。当館の「今」を伝えるために、ツイッター（図書館、電子書籍製作室）、フェイスブック（わくわく用具ショップ）を利用し、年間を通じて当館が行っているイベントや視覚障害関連の情報を提供しました。また、施設公開イベント「日本点字図書館オープンオフィス」（平成 26 年 11 月 15 日・16 日）及び、特別企画として「本間一夫と盲人用具の 50 年展」を開催しました（11 月 11 日～16 日）。オープンオフィスには 1,000 人、用具展には 700 人の来場者がありました。

昨年度のトピックスは、当法人が指定管理者として運営する川崎市視覚障害者情報文化センターが昨年 4 月にオープンしたことです。点字図書館に加え、訓練事業、視覚障害用具の紹介という 3 つの機能を持つ施設は、多くの注目を集め、4 月の開館以来、行政・視覚障害者団体・福祉関係等多くの見学者がお越しになりました。さまざまなイベントを企画したことにより、秋以降は視覚障害の方々のご来場も増え、図書館利用のみならず訓練事業、用具展示コーナーに来場される方も増えました。

最後に、視覚障害者図書情報ネットワーク「サビエ図書館」のシステムの維持・管理を行うと共に、安心して継続的に利用できるよう機器更新の検討を進めたことを付け加えておきます。

このように平成 26 年度の事業は、皆様のおかげではほぼ目標通り進めることができました。次項以降で各事業別の実績をご報告いたします。

平成 26 年度 事業の実績

図書情報サービス

利用登録者数：13,427 人

新規収蔵図書数：点字図書 767 タイトル、録音図書 886 タイトル

蔵書総数：点字図書 21,445 タイトル (80,398 冊)、録音図書 15,730 タイトル

貸出数：点字図書 9,006 タイトル (34,252 冊)、録音図書 136,097 タイトル

ダウンロード提供数：点字図書 1,186 タイトル、録音図書 54,550 タイトル

専門対面リーディングサービス利用実績：延べ 703 人、1,401 時間

中途視覚障害者対象の点字教室開催実績：延べ 1,383 人、254 回

視覚障害者対象のパソコン教室開催実績：延べ 94 人、336 回

レファレンス：視覚障害者図書情報提供 77,525 件

視覚障害関係墨字資料 (奥村文庫)：新規収蔵 1,858 点、利用 995 件

図書製作事業

製作数：点字図書 213 タイトル (985 冊)、録音図書 445 タイトル (3,534 時間)

テキストデイジー図書 447 タイトル、マルチメディアデイジー図書 13 タイトル

月刊録音雑誌「にってんデイジーマガジン」を 80,714 枚配布

ボランティア数：点訳ボランティア 94 名、朗読ボランティア 52 名

デイジー編集ボランティア 17 名、テキストデイジー編集ボランティア 49 名

録音図書ネットワーク製作システム参加ボランティア 78 名

クラウドソーシング型図書校正参加ボランティア 254 名

視覚障害者用具の販売あつ旋

年間取扱点数：897 種、104,335 点

新規取扱商品：「簡単サ印ガイド」、「カシメジャー」「ハトメジャー」、

「指先が出るやわらか手袋」他

厚生労働省委託・補助事業

[視覚障害者用図書事業等]

点字図書：35 タイトル (6,525 冊) 製作、延べ 545 タイトル (2,275 冊) 貸出

録音図書：音声デイジー図書を 24 タイトル、マルチメディアデイジー図書を

8 タイトル製作、延べ 1,669 タイトル貸出

[盲人用具の販売あつ旋]

盲人用具 16 種、24,566 点

〔サピエ図書館の運営（視覚障害者用図書情報ネットワーク運営事業）〕

会員数：個人会員 13,446 人、施設会員 291 施設

提供数：

- ・点字データ 140,832 タイトル
- ・音声デージーデータ 61,849 タイトル
- ・テキストデージーデータ 1,491 タイトル
- ・マルチメディアデージーデータ 63 タイトル
- ・目録 964,873 タイトル

利用数：

- ・点字データ 延べ 709,115 タイトル
- ・音声デージーデータ 延べ 3,242,759 タイトル
- ・テキストデージーデータ 延べ 108,958 タイトル
- ・マルチメディアデージーデータ 延べ 1,947 タイトル
- ・目録検索 2,618,804 件
- ・オンラインリクエスト 337,317 件

その他、全国の点字・公共図書館等に 77,525 件の情報を提供しました。



文部科学省委託事業

アクセシブルな音声・マルチメディア教材製作用 Web アプリケーションの開発

東京都委託事業

〔点字図書の製作・貸出〕

- ・点字図書：29 タイトル（320 冊）製作、延べ 229 タイトル（1,165 冊）貸出

〔声の図書の製作・貸出〕

- ・声の図書：77 タイトル（385 枚）製作、延べ 4,521 タイトル（4,536 枚）貸出

〔視覚障害者用図書レファレンスサービス〕

- ・都内の視覚障害者、施設・団体に対し 31,627 件の情報提供

〔希望図書の製作〕

- ・個人の希望する点字図書：76 人・118 件、声の図書：156 人・181 件

海外支援事業

■池田輝子基金によりマレーシアにおいて第 11 回池田輝子 ICT 奨学金事業を実施しました。18 名参加（中級 8 名、上級 10 名）

■一般社団法人霞会館の助成により東ティモールにおいて第 21 回コンピュータ点字製作技術指導講習会を実施しました。7 名参加

チャリティ公演・イベント

[チャリティコンサート]

第12回本間一夫記念日本点字図書館チャリティコンサート

「梯剛之デュオ・リサイタル～ヴォルフガング・ダヴィッド (Violin) を迎えて」

12月18日(木) 東京文化会館小ホール

[チャリティ映画会]

・秋の映画会：『少年H』9月25日(木) なかのZERO大ホール 299名

・春の映画会：『円卓 こっこ、ひと夏のイマジン』3月19日(木) なかのZERO大ホール 278名

[各種イベント]

●日本点字図書館オープンオフィス 11月15日(土)・16日(日) 来場者1,000名

第11回本間一夫文化賞贈呈式と講演(受賞者 高橋秀治氏)

にっぺん野路菊賞贈呈式

勇退奉仕者感謝状贈呈式

シンポジウム「障害者の読書支援とボランティア活動」

成松一郎氏、並木正氏、河井睦子氏、今野浩美、澤村潤一郎

講演「東京ディズニーリゾートのユニバーサルデザインへの取り組み」野口浩一氏

「服部こうじギター & 三味～秋を彩る MUSIC LOVE CONCERT～」服部こうじ氏

「初めて日本点字図書館に来た日」黒柳徹子氏

●用具事業創設50周年記念特別企画

～日本の共用品・ユニバーサルデザインは盲人用具から始まった！～

「本間一夫と盲人用具の50年展」11月11日(火)～16日(日) 来場者700名

川崎市視覚障害者情報文化センター(設置：川崎市 指定管理事業者：日本点字図書館)

- ・利用登録者数：353名、229施設
- ・蔵書数：点字図書2,421タイトル(8,984冊)、録音図書4,454タイトル
- ・貸出数：点字図書261タイトル、録音図書12,175タイトル
- ・ダウンロード提供数：録音図書248タイトル
- ・図書製作：点字図書26タイトル(24名)、録音図書76タイトル(28名)、
テキストデイジー図書2タイトル
- ・訓練事業：生活訓練6名、歩行訓練24名、パソコン訓練23名、点字訓練6名、
ハンドライティング1名(延べ105名)
- ・用具の点字と販売紹介：展示点数230点、販売紹介点数887点
- ・イベントの開催：オープニングコンサート、「アンと花子」柴田優子朗読会、
センターまつり他

川崎市視覚障害者情報文化センター運営について

日本点字図書館は、川崎市が長年運営してきた川崎市盲人図書館に代わる新施設の指定管理事業者として、川崎市視覚障害者情報文化センターの運営を平成26年4月から開始しました。

オープン当初から、行政・視覚障害者団体・福祉関係者等多くの見学があり、新センターへの関心の高さを実感しました。この1年でセンターには2,585の方が、お見えになりました。

図書の利用に関する数字は前ページに掲載した通りですが、他に新規の点訳者および朗読者のための養成講座を開講し、点訳ボランティア3名、朗読ボランティア4名の方にご参加いただきました。また、従来からいらっしゃるボランティアを対象としたスキルアップ研修会も開催し、日本点字図書館の経験と技術を運営に反映することができました。

歩行訓練や生活訓練などは、希望する方のご自宅まで訪問して、訓練を行います。昨年は延べ105名の方たちに実施しました。新たな試みとして、視覚障害の方々が必要とする便利グッズの紹介を開始したところ、川崎のみならず、横浜、平塚、御殿場などからもお見えになりました。県内の点字図書館からの関心も高く、つながりが広がってきました。

4月早々にはオープニングを記念したコンサートを開催し、以後、さまざまなイベントを企画しました。視覚障害の方に映画を楽しんでいただく音声解説付きDVD体験上映会は毎月開催です。12月の「かわさき冬のコンサート」には、遠く埼玉からお越しの方もいらっしゃいました。1月に開催した「防災イベント」や「世界のバリアフリー絵本展」には地元新聞の取材もあり、地域に密着した意義ある活動となりました。

これらのイベントには、日本点字図書館から職員が手伝いに來ることもあります。用具の紹介は常にきめ細かな連絡をとっていますし、図書の製作面でも効率的な作業分担を図ったり、技術的な問題が生じた際のアドバイスをもらったりするなど、連携をとりながら運営を進めています。

最後に、センターが市内の視覚障害者に対する総合的な情報拠点として果たすべき責任を強く感じ、さらに積極的な情報発信を進めていきたいと考えています。

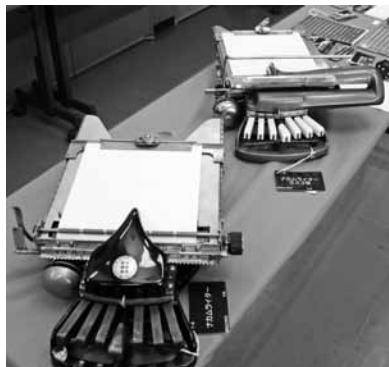


企画展 「本間一夫と盲人用具の50年展」を振り返って

当館の用具販売は、1964年に欧米各国を訪ねて持ち帰った視覚障害者向け用具の展示会をご覧になった方々のお声にこたえる形で始まりました。昨年の企画展では、当時の展示会の中からピックアップして用具を紹介するとともにその後、海外から蒐集したおもちゃや作図用具。そして国産での計測器や音声化された時計や電卓。さらにバリアフリーにつながる商品を紹介。併せて当館に残る古い点字器や点字タイプライターも展示し、用具の歴史をたどりました。

ご覧になられた方からは、「とても貴重な品々で、埋もれてしまうのはもったいない！です。ぜひ、ミュージアム化を望みます。」とのお声をいただき、資料価値の重要性と施設に託された大きな期待を感じました。

さて、50年前に海外から持ち帰った用具を展示してみると、蒐集範囲の広さに気づかされます。筆記用具、学習用具、計測器、調理用具、生活用具、そして盲導犬に使えるペット用ブラシまで、視覚障害の方の生活に関わる多くのものを蒐集してきました。それまでの必需品としての杖や点字器から範囲が広がり、用具販売開設の動きにつながったのだと思います。



お客様のニーズに沿った製品を探し、提供していくことは昔も今も同じです。用具販売は図書館の事業としては後発の事業ですが、今回の展示会を通じて、今後も魅力ある製品を探し紹介していきたいと、改めて感じました。

(用具事業課 渡辺 明)

用具事業開設50周年記念特別企画
日本の共用品・ユニバーサルデザインは
盲人用具から始まった！

本間一夫と盲人用具の50年展

平成26年11月11日(火)～11月16日(日)
10時～16時(最終日は17時まで)
日本点字図書館・多目的室
入場無料

社会福祉法人日本点字図書館
東京都港区赤坂1-23-4 電話:03-3209-0241
http://www.nihanten.or.jp/

【開催】
日本点字図書館オープンオフィス
平成26年11月15日(土) 10時～16時
11月16日(日) 10時～17時

ご寄付へのお礼とご報告

平成 26 年度は、皆様から以下の通りご厚志を賜りました。

総件数 9,552 件（前年度 10,140 件）

総額 120,466,125 円（前年度 144,211,229 円）

その内訳をご報告いたします。

3,000 円未満	808 件	10 万円以上 50 万円未満	106 件
3,000 円以上 5,000 円未満	3,258 件	50 万円以上 100 万円未満	11 件
5,000 円以上 1 万円未満	2,621 件	100 万円以上	11 件
1 万円以上 10 万円未満	2,737 件	合 計	9,552 件

26 年度も多くの皆様から尊いご支援を頂戴いたしました。深く感謝申し上げます。経済情勢の厳しい中、少しでも利用者の皆様への支援になればと、ご寄付をお送りくださる方の多いことに、感謝のほかございません。

おかげさまで、視覚障害者の皆様に点字図書・録音図書を製作・貸出を行う基本事業や、中途視覚障害者の点字教室などのサービスを円滑に進めることができました。

ご厚志をお寄せくださいました皆様、本当にありがとうございました。

このうち、3 件はご遺贈として、1 件はお香典返しとして頂戴いたしました。謹んで故人のご冥福をお祈りいたしますとともに、ご遺族ならびに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

◆◆愛のポストカード・愛のCD・DVD運動へのご支援◆◆

当館では、書き損じはがきや未使用のはがき、ご不要になった市販の音楽CDやDVDをご寄贈いただいております。はがきは、切手に交換して日常業務に不可欠な通信費の一部に、CD・DVDは、中古店に買い取っていただいた売り上げを運営資金に、それぞれ充当させていただいております。

平成 26 年度は、はがきの切手への引き換え金額は 400,476 円、CD・DVDの買い取り金額は 177,999 円になりました。

この二つの運動は、小・中学生から年配の方まで、気軽にご参加いただけるご支援方法です。当館にとりましても、貴重な浄財となっております。今後も継続してまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

◆◆ ご寄付いただいた主な企業・団体のお名前 ◆◆

当館にご寄付いただきました主な企業・団体のお名前です。560 団体の皆様から、合計 13,876,911 円のご協力を頂戴しました。紙面の都合上、ご協力いただきました企業・団体すべてを掲載できず、申し訳ございません。全団体は、当館ホームページにて掲載させていただきます。

(五十音順)

団 体 名	
朝日生命保険相互会社	宝印刷株式会社
イオンクレジットサービス株式会社	社会福祉法人中日新聞社会事業団東京支部
株式会社エルエッチエス	デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社
医療法人社団三敬会忍足眼科医院	電気事業連合会
海藏院	東京 I ゾンタクラブ
医療法人春日上原眼科医院	ニシフミート株式会社
観音寺	P F U 労働組合
小橋国際特許事務所	株式会社日立ビルシステム
株式会社さくらケーシーエス	医療法人社団雄飛会平岡眼科医院
シオノギ社会貢献支援会	有限会社 F o r Y o u
地福寺	一般財団法人報国積善会
聚福寺	真宗大谷派開明寺
宗教法人真福寺	柳川特許事務所
一般社団法人全国銀行協会	リネットジャパングループ株式会社
全国友の会中央部	有限会社菱和興産

◆◆ 募金箱設置にご協力いただいた主な企業・団体のお名前 ◆◆

26 団体の皆様から、合計 504,623 円のご協力を頂戴いたしました。

(五十音順)

団 体 名	
朝日信用金庫	キリンシテイ
井上眼科	株式会社ニデック
株式会社M&S スパ・プロジェクト	ハイアットリージェンシー東京
オリンピック眼科病院	林歯科
医療法人湘山会眼科三宅病院	ロイヤルパークホテルザ汐留

◆◆ チケット購入にご協力いただいた主な企業・団体のお名前 ◆◆

当館が主催したチャリティ映画会・チャリティコンサートのチケット購入にご協力いただいた主な企業・団体のお名前です。47団体の皆様から、合計1,163,000円のご協力を頂戴しました。紙面の都合上、ご協力いただきました企業・団体すべてを掲載できず、申し訳ございません。全団体は、当館ホームページにて掲載させていただきます。

(五十音順)

団 体 名	
アコ・ブランズ・ジャパン株式会社	東亜ディーケーケー株式会社
N T T東京福祉文化事業団「ゆいの会」	東京Iゾントクラブ
オリンピック眼科病院	東洋はり医学会
株式会社偕成社	株式会社日清製粉グループ本社
学書院	株式会社日本財託
株式会社サン・データセンター	公益財団法人日本テレビ小鳩文化事業団
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	株式会社ハーベスト
大同通商株式会社	社会福祉法人ぶどうの木ロゴス点字図書館
株式会社タカラトミー	法明寺
公益財団法人鉄道弘済会	公益財団法人毎日新聞東京社会事業団
天理教東京教区まこと会	有限会社菱和興産

◆◆ 企業や団体からのご助成 ◆◆

企業・団体名	金額(円)	助成内容
株式会社岩波書店	240,000	岩波新書等の録音版の製作・貸出
一般財団法人NHKサービスセンター	2,000,000	点字版「NHKウイークリーガイド」の製作・頒布
一般社団法人霞会館	1,000,000	第21回アジア盲人図書館協力事業の実施(於 東ティモール)
公益信託久保記念点字図書援助基金	370,000	貸出用点字図書と録音図書の購入
埼玉県民共済生活協同組合	3,000,000	点字図書と録音図書の製作・貸出(視覚障害者の情報収集支援事業)
公益財団法人JKA	2,499,000	月刊録音雑誌「医学研究」及び「ホームライフ」の製作・配布(障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動)

企業・団体名	金額(円)	助成内容
全国ラジオチャリティミュージックソン実行委員会	1,000,000	録音図書のデイジー編集作業
全国労働者共済生活協同組合連合会	1,000,000	点字図書と録音図書の製作・貸出(視覚障害者の情報収集支援事業)
公益財団法人鉄道弘済会	1,800,000	録音雑誌「ブックウェブ」の製作・貸出
東京都民共済生活協同組合	2,000,000	点字図書と録音図書の製作・貸出(視覚障害者の情報収集支援事業)
株式会社トーハン	500,000	点字図書と録音図書を製作するための原本及び資料の提供
一般財団法人日本宝くじ協会	2,000,000	点字図書と録音図書の製作・貸出
一般財団法人日本メイスン財団	3,000,000	点字図書と録音図書の製作・貸出 DVD映画対応音声解説CDの製作・貸出
日本郵便株式会社	1,800,000	視覚障害者のための正確な点字情報を含めることができる電子書籍製作システムの開発
公益財団法人 パブリックリソース財団	56,100	点字・録音図書製作のための原本購入
公益財団法人原田積善会	500,000	本間一夫の伝記小冊子の製作
公益財団法人一ツ橋総合財団	7,000,000	録音図書「一ツ橋文庫」の製作・貸出
		アクセシブルな電子書籍製作のためのシステム整備
		デイジー教科書の製作・提供
株式会社文藝春秋	960,000	録音雑誌「文藝春秋」の製作・貸出
前田建設工業株式会社	1,000,000	点字図書の製作・貸出・配布
公益財団法人三菱財団	600,000	マルチメディアデイジー教科書の製作ソフトのクラウド化とネットワークを用いた理数系教科書共同制作の研究
社会福祉法人 読売光と愛の事業団	18,985,505	専門対面リーディングサービス事業の実施
		ロービジョン機器等相談事業の実施
		岩手ロービジョンセミナーの開催協力
		視覚障害者就労支援機器(点字ペンディスプレイ)の購入

❖❖ ワンブック・プレゼント運動へのご支援 ❖❖

多くの企業・団体と個人の皆様からワンブック・プレゼント運動にご支援いただきました。この運動は、一口10万円単位のご寄付を点字図書・CD図書の製作費用に充てさせていただくものです。完成した図書には、ご寄付くださった企業・団体・個人の方のお名前やメッセージなどを表示して、利用される読者の方に皆様のご支援の一端をお伝えいたします。

(敬称略)

点 字 図 書		C D 図 書	
お名前	口数	お名前	口数
イオンクレジットサービス株式会社	22	イオンクレジットサービス株式会社	23
篠田みつ	10	ロクシタンジャポン株式会社	15
特定非営利活動法人チャリティー・アソシエーション	7	スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社	14
株式会社 東横イン	2	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	5
大竹玉枝	2	ハウス食品労働組合	5
古川京一 (故人)	2	はんだこどもクリニック	3
共同印刷株式会社	1	下野恵子	2
株式会社 日立ビルシステム マッチング・ギフトファンド	1	アサヒワンビールクラブ	1
鈴木肇	1	株式会社 日立ビルシステム マッチング・ギフトファンド	1
匿名1件	1	岩瀬愛子	1
		霜鳥實・霜鳥由明 (故人)	1
		匿名4件	5
点字図書 合計 10件	49口	CD図書 合計 15件	76口
点字図書・CD図書 総計 125口			

❖❖ 池田輝子基金のご報告 ❖❖

高田馬場の篤志家・池田輝子氏から寄贈されたマンション2棟の家賃収入は、40,139,361円でした。この費用により、132タイトルの録音図書を製作する池田文庫事業およびアジアの盲青年を支援する池田輝子 ICT 奨学金事業を実施しました。

決算のあらまし

平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日

単位 (円)

事業活動による収支 (収入)	
点字図書館事業収入	549,648,935
盲人用具販売事業収入	376,202,759
マンション経営事業収入	40,139,361
本部事業収入	4,219,838
経常経費寄附金収入	134,550,188
受取利息配当金収入	4,218,852
その他の収入	3,793,376
事業活動収入計(1)	1,112,773,309
事業活動による収支 (支出)	
人件費支出 (法人負担分)	295,644,615
委託・補助金事業人件費支出	222,939,918
事業費支出	402,248,753
事務費支出	78,594,859
支払利息支出	161,084
その他の支出	2,036,664
事業活動支出計(2)	1,001,625,893
事業活動資金収支差額(3=1-2)	111,147,416
施設整備等による収支 (収入)	
施設整備等補助金収入	2,350,000
設備資金借入金収入	14,880,000
施設整備等収入計(4)	17,230,000
施設整備等による収支 (支出)	
設備資金借入金元金償還支出	10,708,700
固定資産取得支出	35,862,657
ファイナンス・リース債務の返済支出	504,224
施設整備等支出計(5)	47,075,581
施設整備等資金収支差額(6=4-5)	△ 29,845,581
その他の活動による収支 (収入)	
投資有価証券売却収入	14,489,136
積立資産取崩収入	380,022,890
その他の活動による収入	351,000
その他の活動収入計(7)	394,863,026
その他の活動による収支 (支出)	
積立資産支出	489,967,192
その他の活動による支出	748,114
その他の活動支出計(8)	490,715,306
その他の活動資金収支差額(9=7-8)	△ 95,852,280
当期資金収支差額合計(10=3+6+9)	△ 14,550,445
前期末支払資金残高(11)	
	81,591,175
当期末支払資金残高(10+11)	
	67,040,730

日本点字図書館のあゆみ

1940（昭和15）年	全盲の青年 本間一夫が日本盲人図書館（現在の社会福祉法人日本点字図書館）を創立 蔵書700冊
1945（昭和20）年	戦災により本館焼失 貸出は疎開先で継続
1948（昭和23）年	焼け跡に仮建築で再出発 日本点字図書館に改称
1952（昭和27）年	社会福祉法人となる
1953（昭和28）年	本間一夫が朝日社会奉仕賞受賞
1954（昭和29）年	厚生省から点字図書製作事業の委託を受ける
1958（昭和33）年	声のライブラリー発足 テープ50巻、レコーダ1台
1960（昭和35）年	「中途失明者のための点字教室」を開始
1966（昭和41）年	視覚障害者用生活用具の開発と普及事業を開始
1976（昭和51）年	声の図書の「カセットテープ化」を開始
1989（平成元）年	厚生大臣特別表彰（身体障害者福祉功労団体）を受賞
1991（平成3）年	パソコン点訳者養成事業開始
1994（平成6）年	アジア盲人図書館協力事業開始
1996（平成8）年	専門対面リーディングサービス開始
1998（平成10）年	国費による新別館完成 皇后陛下ご臨席のもと新館披露の式典開催
1999（平成11）年	デジタル録音図書（CD図書）の製作・貸出開始
2003（平成15）年	本間一夫と日本点字図書館が、第10回井上靖文化賞を受賞 ロービジョンサポート事業開始 創立者本間一夫他界（享年87歳）
2004（平成16）年	録音図書ネットワーク配信サービス「びぶりおネット」開始
2005（平成17）年	ユニバーサルデザイン推進室（UDラボ）設置 録音図書ネットワーク製作システム（びぶりお工房）開始
2007（平成19）年	アジア太平洋障害者の10年の中間年記念 内閣総理大臣表彰受賞
2008（平成20）年	チャリティコンサートに皇后陛下のご臨席を賜る
2009（平成21）年	CD雑誌「にっぺんデイジーマガジン」創刊
2010（平成22）年	視覚障害者情報総合ネットワーク「サビエ」開始 「日点みんなの集い」に皇后陛下のご臨席を賜る
2011（平成23）年	カセットテープによる録音図書サービスを終了
2013（平成25）年	「シネマ・デイジー」サービス開始
2014（平成26）年	川崎市視覚障害者情報文化センターの管理運営開始

役 員

理事長	田中 徹二
常務理事	杉山 雅章 館長
同	伊藤 宣真 本部長
理事	大塚 信一 元 (株)岩波書店代表取締役社長
同	岡村 喬生 声楽家・音楽監督
同	河 幹夫 神奈川県立保健福祉大学教授
同	田中 敏雄 (株)福祉施設共済会代表取締役
同	花島 弘 (公財)共用品推進機構理事
同	日高 由央 元 武蔵野大学教授
同	三田 誠広 作家・(公社)日本文藝家協会副理事長
監事	野田 聖子 弁護士
同	脇本 千治 (一社)日本義肢協会常務理事

評 議 員

青木 裕子	樽松 武男	富田 清邦	星川 安之	山岡 三治
阿佐 博	高橋 秀治	長岡 英司	本間 一明	山崎 喜芳
石橋 迪子	竹村 実	長谷川貞夫	増渕 路子	渡邊 岳
加藤真由美	立花 明彦	福島 智	水野 雅夫	和波 孝禧
河野 康德				

後援会長 阿刀田 高 (作家・日本文藝家協会理事)



社会福祉法人 日本点字図書館

〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1-23-4

電話 (03) 3209-0241 (代表) FAX (03) 3204-5641

ホームページ <http://www.nittento.or.jp/> Eメール nitten@nittento.or.jp

ゆうちょ銀行振替口座 一 般：00160-2-100288

取引銀行及び普通預金口座番号

みずほ銀行 高田馬場支店 普通 2855735

三井住友銀行 高田馬場支店 普通 92380

三菱東京UFJ銀行 高田馬場駅前支店 普通 167456

口座名：社会福祉法人 日本点字図書館 フリガナ：フク)ニッポンテンジトシヨカン

インターネットからもご寄付いただけます

で検索

(敬称は省略させていただきます)